

上越地域米の品質向上に向け栽培管理を徹底しよう！

高温が予想されます。気象変動に対応した管理を徹底しましょう！

- ・ 期間を通じて平均気温は高く、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。
- ・ 穂肥を全体に控えめの施肥管理の場合や、一発元肥施用の場合は収穫期の栄養凋落を防ぐため、出穂期3日前（穂が1割未満出穂した頃）の葉色を確認し追肥を検討して下さい。

※コシヒカリの目安：SPAD値32以下・葉色板（単葉）4.5以下の場合窒素量で1kg/10a（えちご上越専用穂肥チャレンジャー：約7kg/10a）を施用して下さい。

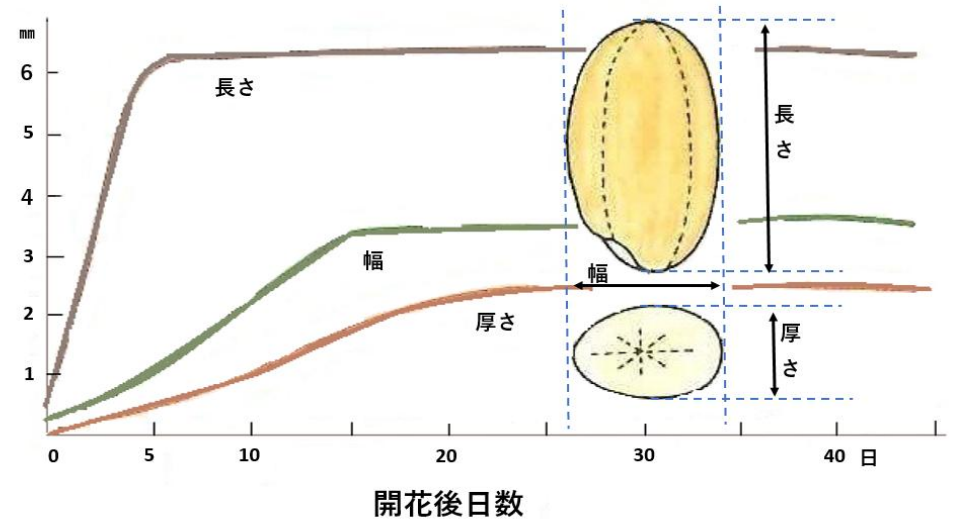
※特別栽培米に取り組まれている場合は、含有窒素量にご注意下さい。

出穂期を迎え飽水管理を継続して下さい

- 登熟初中期はデンプン蓄積が盛んな時期のため、可能な限り飽水管理を継続し、田面を乾かすことがないように管理して下さい。
- 極端な高温やフェーンが予想される場合は、速やかに湛水して稲への水分ストレスを軽減しましょう。ただし、根腐れ防止のため湛水は一時的なものとして下さい。
- 完全落水はできる限り遅くし、出穂後25日以降をめやすとして下さい。



図 飽水管理の状態（足跡に水が残る程度）



玄米の外形の発達（星川，1975）

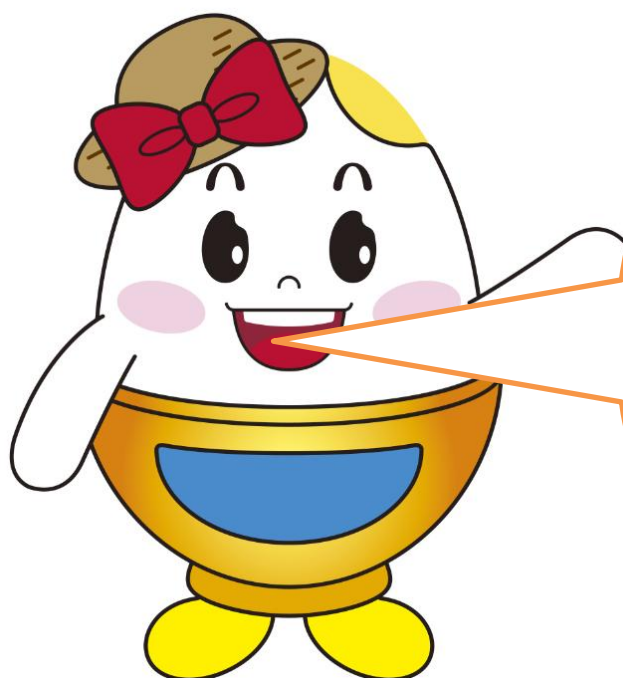
LINE 営農情報LINE公式アカウント 友だち募集中！

営農生産活動に役立つ情報をお届けしていきますので、生産者の皆さまの登録をお待ちしています。

◎ 友だち登録は、QRコードを読み取るか、ID検索からお願いします。



@618zoxpw



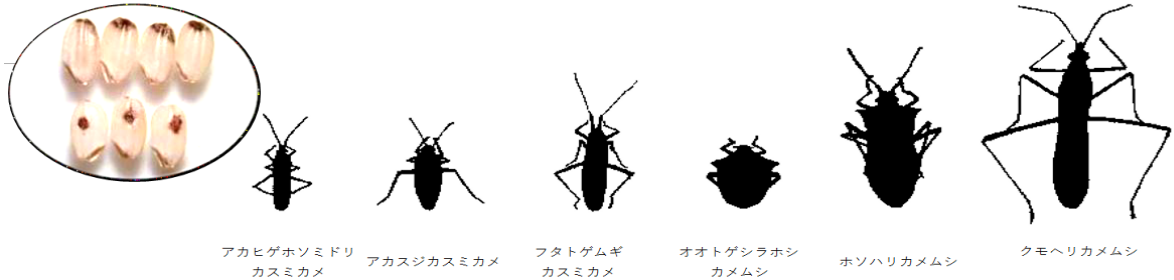
水管理の重要な時期になります。異常高温時やフェーン現象の時は、速やかに灌水出来る様に！

病虫害防除について(斑点米カメムシ・稲こうじ病・いもち病・紋枯れ病)

近年の斑点米の主要加害種はアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメであり、カスミカメムシ類2種の発生数と斑点米の発生には相関が認められます。カメムシの発生数が平年並でも斑点米が多発生する可能性が高いので注意が必要です。

また、いもち病・紋枯れ病等の発生につきましても、梅雨で湿度も高く病害の発生好適状態が継続しております。また、梅雨明け後の天候状況により、病害の発生する可能性が高まりますので注意が必要です。

病虫害名	薬剤名	10aあたり 散布量	散布時期	備考
カメムシ	スタークル粒剤	3kg	出穂期～出穂期7日後	浅水（3cm程度）で散布する
	キラップ粉剤DL	3kg	穂揃期～出穂期10日後	散布時期が早すぎないように
いもち病	ブラシン粉剤DL	4kg	出穂期	収穫7日前まで
	フジワン粒剤	3～5kg	葉いもち 初発7日前～10日前 穂いもち 出穂10日前～30日前	初発は発生予察情報で確認する 収穫30日前まで
紋枯れ病	リンバー粒剤	3～4kg	出穂30日前～出穂10日前	水を張って（3cm以上）散布する
	バリダシン粉剤DL	3～4kg	1回目：出穂10日前～出穂期直前 2回目：穂揃い期頃	パイプダスター等で稲上からの散布又は株元等の発生部を狙って散布する
稲こうじ病	Z(ゼット)ボルドー粉剤DL	3～4kg	出穂20日前～10日前まで	出穂期の散布は薬害が出やすい



ほ場ごとの出穂期を確認して下さい

出穂期と収穫適期のめやす

○ 中山間地では、平年並み・平坦地では出穂が平年並みです。ほ場ごとの出穂期を確認したうえで収穫計画を立てましょう。

表 出穂期と収穫適期のめやす（7月10日現在）

	品種名	出穂期	出穂後の積算温度	収穫適期のめやす
早生	つきあかり	7月20日頃	1,000℃	8/29頃
	こしいぶき	7月27～28日頃	975℃	9/5頃
中生	こがねもち	7月27日頃	1,000℃	9/5頃
	コシヒカリ	8月2日頃 8月5日頃（中山間地） 8月8日頃（山間地）		9/11頃 9/14頃（中山間地） 9/17頃（山間地）
	新之助	8月8日頃	1,100℃	9/22頃
晩生	にじのきらめき	8月7～8日頃	1,100～1,200℃	9/16～17頃
	みずほの輝き	8月10～11日頃	1,100℃	9/24～25頃

令和8年度 安全・安心「えちご上越米」栽培履歴の提出について

・第2回目提出日、8月20日までに農家組合長へ提出をお願いします。

※栽培履歴の提出が必要な方は、JAに米を出荷する方及び飯米のみ作付の方でも、カントリーエレベータ等のJA施設を利用される方が対象です。提出が無いと施設利用が出来なくなります。必ず提出して下さい。

